## 那須岳の火山活動解説資料(令和7年10月)

気象庁地震火山部 火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。 噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

## 〇 活動概況

・噴気など表面現象の状況 (図1、図2、図3-1①②、図3-2、図4-①)

湯本2監視カメラ(茶臼岳山頂火口の南東約5km)による観測では、茶臼岳の噴気は認められませんでした。なお、日の出平北監視カメラ(茶臼岳山頂火口の南西約0.8km)による観測では、これまでどおり茶臼岳西側噴気地帯で噴気が認められています。

・地震や微動の発生状況(図3-13)、図4-2、図5)

那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は、 主に茶臼岳付近の深さ0km付近に分布しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況(図4-③~⑤、図6)

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図 1 那須岳 茶臼岳の状況(10月30日、湯本2監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\_v-act\_doc/monthly\_vact.php 次回の火山活動解説資料 (令和7年11月分) は令和7年12月8日に発表する予定です。

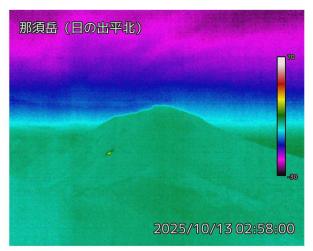
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

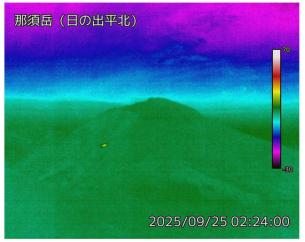
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』『電子地形図 (タイル)』を使用しています。







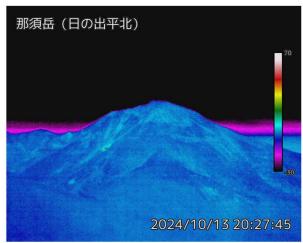


図2 那須岳 茶臼岳の可視画像と地表面温度分布(日の出平北監視カメラによる)

- ・噴気地帯に対応している場所で引き続き高温部分が認められます。
- ・前月(左下図)及び前年(右下図)と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められません。

- 2 -

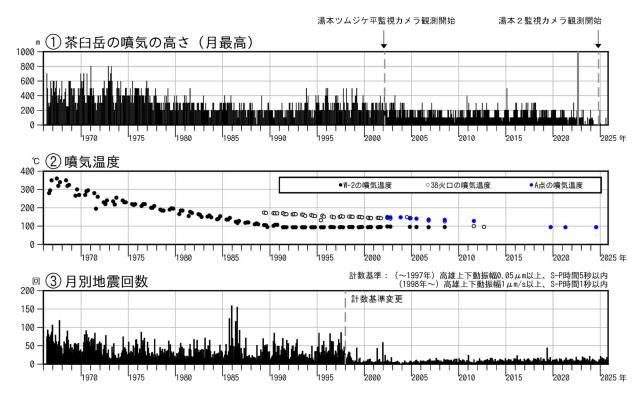


図 3-1 那須岳 火山活動経過図 (1966 年 6 月~2025 年 10 月)

- ① 2002年2月以前は、定時観測(09時・15時)による月最大値。2002年3月からは湯本ツムジケ平監視カメラ、2024年10月25日以降は湯本2監視カメラによる月最大値。灰色部分は欠測を示します。
- ② 噴気温度の W-2、38 火口及び A 点はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点(図3-2)
- ③ 月別地震回数 (~1997年:那須岳周辺の地震を含む、1998年~:那須岳山体付近の地震のみ計数)
- ・火山性地震の回数は長期的(概ね2013年以降)にわずかに増加傾向が認められます。一方で、噴気活動は長期的に低下傾向が継続しています。

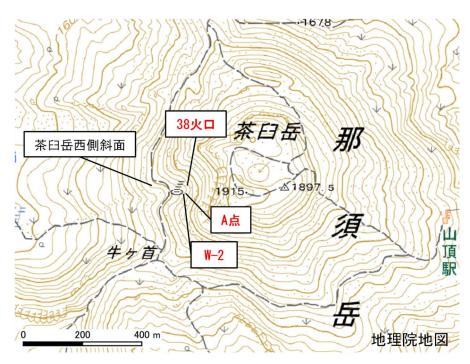
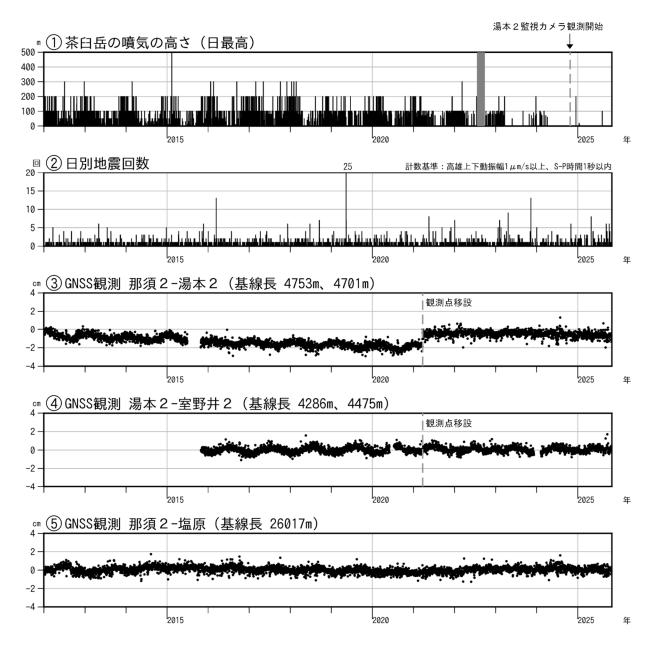


図3-2 那須岳 火口周辺図



## 図 4 那須岳 火山活動経過図(2012年1月1日~2025年10月31日)

- ① 2024年10月24日までは湯本ツムジケ平監視カメラ、それ以降は湯本2監視カメラによる観測結果を示しています。灰色部分は欠測を示します。
- ③~⑤ GNSS 連続観測による基線長変化を示しており、図6の GNSS 基線③~⑤に対応しています。空白部分は 欠測を示します。2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。 2024年1月以降は「令和6年能登半島地震」に伴う変動も含まれています。
- ③④ 湯本2観測点は、2021年3月23日に観測点移設を行いました。
- ③④ 基線長変化にみられる夏季の変化は、気象等の要因と考えられます。 (峠茶屋、沼ッ原の観測点は現在障害中のため、那須2、湯本2、室野井2、塩原での GNSS 連続観測の基線長変化を示しています)
- ・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。

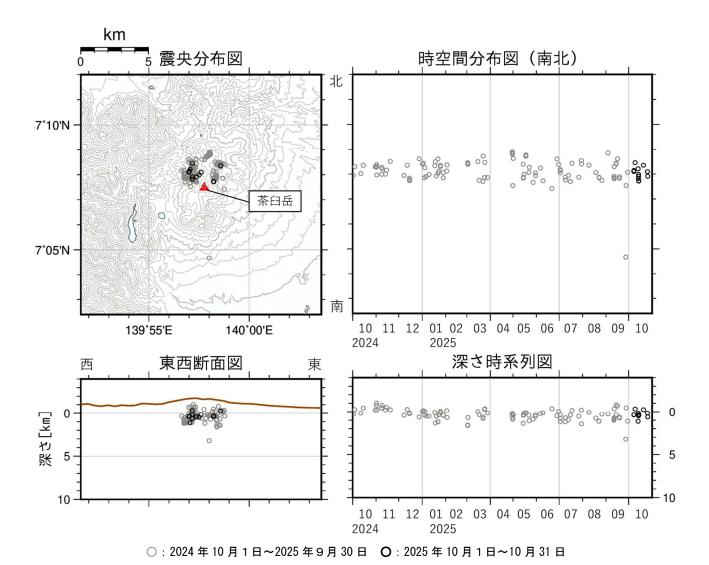
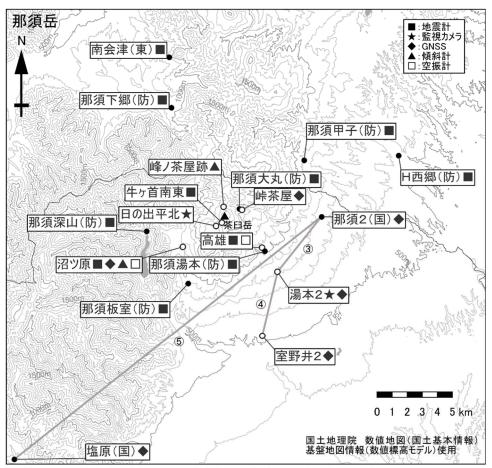


図5 那須岳 震源分布図 (2024年10月1日~2025年10月31日)

- ・那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。
- ・震源は、主に茶臼岳付近の深さOkm付近に分布しました。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。 (国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(東):東北大学

図6 那須岳 観測点配置図

GNSS 基線3~⑤は図4の3~⑤に対応しています。